

宍道湖流入・流出水調査月報

(平成11年10月期)

水質概要

10月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層19.9、中層19.8、下層19.7)と比較すると上旬から中旬にかけては若干高い値を示し、下旬では平年並であった。図1に示すように、10月下旬では上旬に比べ、5ほど低下が見られた。10月においては高塩分水の流入時の中層および下層の急激な水温の低下は見られなかった。

10月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層6.7psu、中層9.0psu、下層10.1psu)と比較すると、上層、中層、下層ともに平年並の値を示していた。また、10月は15psu以上の高塩分水の流入が頻繁に観測された。

10月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係が見られた。また、10月26日～28日にかけての低気圧通過時には継続的な高塩分水の流入が見られた。(図2参照)

10月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層、中層、下層ともに比較的高い値を示していた(平均値:上層5.4、中層:4.8、下層:4.3mg/l)。

図1に示すように中層および下層では2mg/l以下の低い溶存酸素濃度が15psu以上の高塩分水の流入時に頻繁に観測された。

表1 10月期の水質概要

		水温 ()	塩分 (PSU)	溶存酸素 濃度 (mg/l)
上旬	上層	23.8	6.4	5.1
	中層	22.2	7.9	4.6
	下層	23.7	9.4	4.1
中旬	上層	21.8	7.1	5.2
	中層	21.9	10.8	4.3
	下層	21.8	12.6	3.8
下旬	上層	18.9	6.5	5.8
	中層	19	9.6	5.5
	下層	18.9	11.5	4.9
月間平均 (10月)	上層	21.4	6.6	5.4
	中層	21	9.4	4.8
	下層	21.4	11.2	4.3

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年3月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

水質

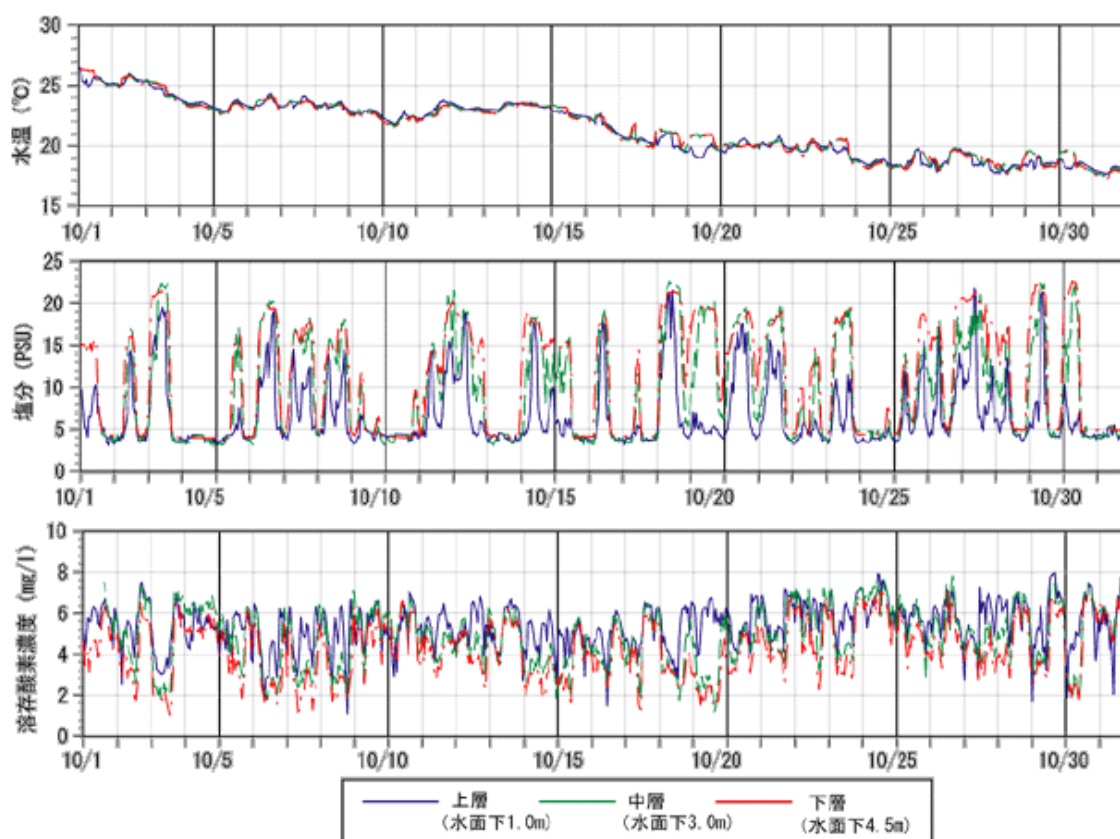


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

気象概況

10月は、表2に示すとおり、平均気温17.8（平年値16.1）であり、平年並であった。

図2に示すように、10月の気圧変動は、10月2日、10月8日、10月27日に急激な気圧の低下が見られた。

平均気圧1015hPaは、平年値と比較して若干低かった（平年値1018hPa）。

表2に示すとおり、10月の日射量は、上旬ではおおむね0.10MJ/m²以上で変動していたが、中旬以降では、0.10MJ/m²以下の日が頻繁に見られた。（9月平均値：0.080MJ/m²）。

10月の風向・風速は、平均風速2.1m/sec（平年値2.7m/sec、東風）であり、平年並であった。ただし、風向については、機器調整のため欠測としております。

表 2 10月期の気象概要

	気温 ($^{\circ}$)	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m 2)
上旬	19.7	1015	2.1	-	0.083
中旬	18.4	1015	1.9	-	0.05
下旬	15.6	1015	2.1	-	0.057
月間平均 (10月)	17.8	1015	2.1	-	0.063

(平年値は、平成 11 年気象の暦 (山陰版) (財) 日本気象協会中国センターより引用)
(表中の数字は、平均値を示す)

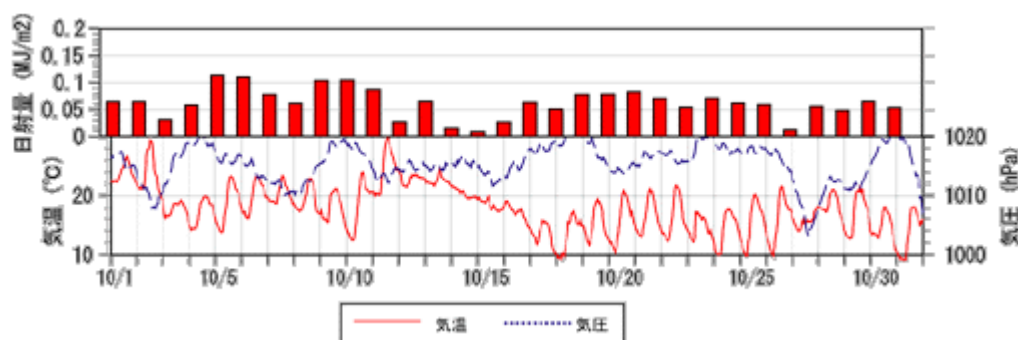


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

流況

10月の平均東方流速は、上層 19.1cm/sec、中層 7.7cm/sec、下層 6.9cm/sec であった。また、図 3 に示すように、10月の東方流速は、10月2日、8日、27日の低気圧通過時では中海から宍道湖へ向かう流れが卓越していた。一方、高気圧が張り出していた10月17日～18日においては、宍道湖から中海に向かう流れが卓越していた。

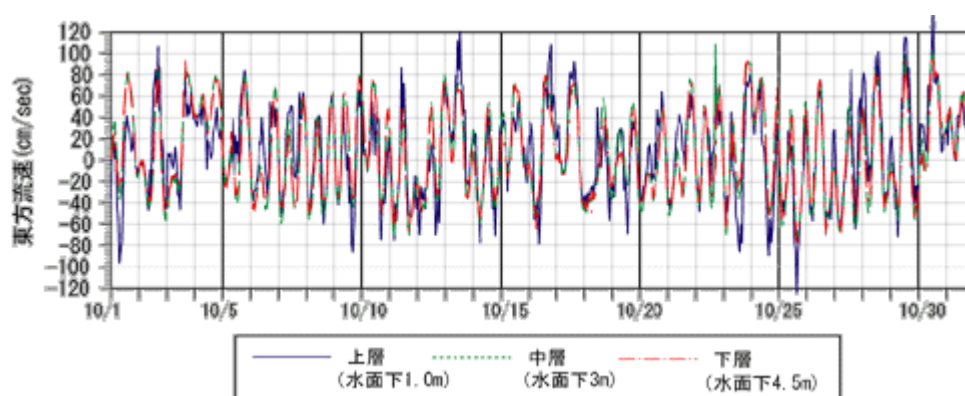


図 3 東方流速の時系列変化